本宮市立白岩小学校　11 歳

401「東日本大震災の体験談と復興への想い」応募原稿　氏名 石川美澄

私は3.11の日は、お母さんと買い物に来ていました。するとたなの上の商品がおちてきたり、ゆれがはげしくて、転んでいる子どもも、いました。店員の指じにより、みんなへと出て、いなんをしました。とめてあった車でさえゆれていました。

お母さんと家へもどると、テレビは、たおれ、かべには、ひび、電気は付かない、物はさんらん、とにかくすごく物がさんらんしていました。とりあえずかた付けて、夜をろうそくで過ごしました。つぎの日電気がふっきゅうして、テレビを見てみると、私たちよりひがいに合っている人たちがたくさんいました。死者も出ました。

これからはもうじしん3.11をこえる大しん災は、来てほしくないなと思いました。

（20文字 × 20行）

本宮市立白岩小学校　10 歳

402 「東日本大震災の体験談と復興への想い」応募原稿　氏名酒井桜

私が大震災を体験したのは、小学1年の頃でした。その時私は子どもクラブにいました。地震が起きた時、室内から出されおさまるのを待ちました。しかしおさまる事はなくどんどん時間が過ぎました。夕方になり親が迎えにきて家に帰ると家の中はぐちゃぐちゃでした。明かりはなく、ろうそく1本で、とても大変な思いをしました。私は何もできなく、お母さんお父さんそして、兄、姉にはとてもお世話になりました。震災で仮設住宅に住んでいる人もいて、いつもどんな生活をしているのだろうと思います。

復興をするためには、お金の募金、消費税を高くするなどお金に関わることだけでなくて、人々の努力、そして助け合い、コミュニケーションが大切だと思っています。自分がどういうことをしたら復興へ繋がるかを考えて、生活をしていきたいです。復興はすぐできる事ではないと思うので、みんなで協力して復興の1歩として近づきたいです。

（20文字 × 20行）

本宮市立白岩小学校　11 歳

403　「東日本大震災の体験談と復興への想い」応募原稿　氏名 菊地朝陽

ぼくは、東日本大震災がおきたとき、家にいました。そのころぼくは一年生だったので、あまり、地震のことは知りませんでした。テレビで、緊急地震速報がなったときどうすればいいか分かりませんでした。するといきなり、はげしく、ゆかがゆれました。ガタガタと棚にあるものが落ちてきます。ゆれがおさまって外にでると、雪がふってきました。ぼくはそのときから、地震のおそろしさを知りました。ガス、電気、水道なども使えなくなり、ロウソクなどを使うしかなくなりました。

しかしきょうふはまだ続きました。その後ラジオで情報を聞いていると、津波がおそってくるというのです。ぼくは中通りに住んでいたので津波はおそってきませんでした。しかしまた問題がおきてしまいました。原発の問題です。そこから東北地方は風評被害を受けてしまいました。ぼくは、だんだん震災前の東北地方にもどってきてほしいなと思います。

（20 文字 × 20 行）

本宮市立白岩小学校　11 歳

404「東日本大震災の体験談と復興への想い」応募原稿　氏名 国分啓徳

東日本大震災が始まる直前、ぼくは、家の近くの通学路で友だちといっしょに歩いていました。とつぜん、地面がゆれはじめ、ぶしんにおもったしゅんかん、つよく、たてにゆれはじめたのです。ひっぱられるように左右にゆれる電線。このじょうたいにおどろき、みんなでかたまって家にかえったなどでした。

家にかえっても、こんなんはありました。家がていでんになり、家の中がさむくなってしまったのです。さむく、しかもゆれる家の中にいたら、いつころび、手足がひえるか分かりません。ゆれがおさまるまで、車の中ですごしました。ゆれがおさまっても、ていでんはまだつづき、家の中はまっくらでした。なので、電気がついたときはよろこびました。

正直、速くぶっこうしてほしいです。うちはキノコのう家なので、生活にちょっぴりと、たんがかかっているのです。

（20 文字 × 20 行）

本宮市立白岩小学校　11 歳

405 「東日本大震災の体験談と復興への想い」応募原稿　氏名 根本 妃菜

東日本大震災が起きたとき、私はまだ1年生でした。学校が終わっていつもどおり家に帰ると中それは起こりました。友達といっしょに歩いていると、急に大きな地震が起こりました。私達は近くに電柱があるところにいたので急いでそこからはなれました。家に帰ると、いつもは明るく電気がついているのになぜか家が真っ暗でした。中に入ると、お母さんや弟やおばあちゃんみんなテーブルの下にかくれていました。私の家はお店をやっています。周りを見るとたなから落ちたお菓子やつぶれたジュース、かざってあったものなど全部がバラバラになって落ちていました。あの日からずいぶんたった今でも地震は起きます。震災でひ害にあった人たちがたくさんいたことを知ったときには私の家にはひ害がなくて本当によかったと思いました。ひ害にあった人たちも私たちも、もうあんなことは経験したくありません。少しずつでも復興できるようにできることをやりたいと思います。

（20文字 × 20行）

本宮市立白岩小学校　11 歳

406 「東日本大震災の体験談と復興への想い」応募原稿　氏名 荻野雄太

ぼくは白岩小学校一年の終ごろの三月十一日の午後のこと児童クラブで遊んでいるときのこと突然大きなゆれがあり逃げまわりました。先生の声でおちつきました。そのうちにお父さんがむかえに来てくれたのですぐに車に乗りお家に帰りました。お家の屋根のかわらが前方やうしろの方にたくさん落ちてびっくりしました。お父ちゃんとおばあちゃんは家の前のかわらかたずけをしていました。夜になって電気はこない。テレビは見られませんでした。三日ぐらいは電気が止りごはんも食べることができないのでこまりました。お父さんは会社にも行くことができないので会社の機械が動き出すまでお休みになりました。何も知らない時がありました。そのうちに電気もつきました。新聞も来ました。はじめて原子力発電所の話をお父ちゃんから聞きました。お父ちゃんは一ケ月分の新聞を全部とじて大切にしまいこみました。お父ちゃんからこわれました雄太が大きくなった時に出して見てくれるかなと言われました。

（20 文字 × 20 行）

本宮市立白岩小学校　11 歳

407 「東日本大震災の体験談と復興への想い」応募原稿　氏名 三瓶千尋

震災の時ぼくは1年生でした。地震がおきた時は帰りの会の時でした。帰りの会のさい中にものすごい地震にビックリしていると先生の大きな声が聞こえてきました。その声のゆう動でクラスのみんなが順番に並び校庭に行きました。校庭に出ても地震が止まらずぼくはとてもこわかったです。こわいなと思っていると雪がちらちらとふって来ました。少しおちついたところで校長先生からのお話がありました。校長先生の話が最後になり4月6日まで地震だけではなく原子力発電のばく発により学校には行けなくなりました。原子力のばく発により友だちは県外に一時ひなんする人もいました。ぼくとお兄ちゃんは県外には行きませんでしたがおじいちゃんの家にひなんしました。ひなんしている間に福島県には物がなかなか入ってこなくおじいちゃんやお父さんがぼくたちのためにいろんな所をさがして必要な物は買って来てくれました。もうこんなけいけんはしたくないと思いました。

（20文字 × 20行）

本宮市立白岩小学校　11歳

408「東日本大震災の体験談と復興への想い」応募原稿　氏名 新藤 美羽

3月11日、あの大震災の日、わたしは、小学一年生でした。

学校から帰って、家にいる時でした。おばあちゃんと遊びに来ていたおばちゃんと、まだ一才になっていなかった、赤ちゃんと4人で家にいる時でした。突然、家がゆれて、わたしは、さっとこたつの、中に入ってゆれが治まるまでこわいと、言いながら、待っていました。赤ちゃんは泣くし今でもその時の事は、しっかり覚えています。

それから、わたしたちは、放射能の影響で外で遊ぶことが、できなかったり、出かける時は、マスクをしていました。今、わたしたちは、ホールボディカウンターの検査をしたり、学校の校庭をきれいにしてもらったり、大人の人たちに守られていると思います。わたしの家も除せんしてもらってきれいになりました。これからどんどん明るい未来が待っていると、思います。

（20文字 × 20行）

本宮市立白岩小学校　10歳

409　「東日本大震災の体験談と復興への想い」応募原稿　氏名 奥山せな

私は、あの時学校にいました。目がかゆくて保健室に向かいました。保健室に入ろうとしたその時、学校が大きくゆれて、わたりろうかに走ってにげました。外には、いろんな先生がいてほっとしました。

でも、私がとてもがっかりしたことは、3月11日は、妹のたん生日だったからです。私と妹は、二才差です。それから私は、バスに乗りかえりました。おばあちゃん家も、家もこわれていなくて安心しました。でも、お家の中に入ると、ごちゃごちゃでした。私のつくえの上も、がちゃがちゃで、お母さんのけしょうもわかにおちていました。郡山のおばあちゃん、そしておじいちゃんの家は、水道から水が出なくなってしまいました。

このような体験は、みんなそうだと思いました。その時の私は、この言葉しかかもいつもませんでした。「みんな、そして全国の方、生きのこるかな」と思いました。この体験を生かし、今後役をつけたいなぁと思います。

（20文字 × 20行）

本宮市立白岩小学校　11 歳

410 「東日本大震災の体験談と復興への想い」応募原稿　氏名 國分珠月

二〇一一年、三月一一日、わたしは一年生。いつも通りに家に帰って来て、おやつを食べていました。すると、急に大きな地震が起りました。わたしは、すぐにこたつに入り耳をおさえました。そして、夜になりました。電気は消え、水は出ていたけど今にも止まりそうでした。次の日の朝、電話が一つだけつながりました。しんせきの人たちに電話しました。数日たって、いとこの家や地域が津波でたいへんなことになっていました。いとこは新地町です。わたしもたいへんだったけどいとこの方がたいへんだったことが分かりました。たくさんの人が命を落としました。

これからの福島の人はすごい経験をしたので、それだけ人を大切にすることを学びました。大震災から四年をたとうとしています。まだまだ、震災前見たいにはもどれないけど一歩一歩少しずつ、復こうに向かっている人がいるので、わたしもできることがあったらやりたいと思いました。

（20文字 × 20行）

本宮市立白岩小学校　11 歳

411 「東日本大震災の体験談と復興への想い」応募原稿　氏名 渡辺 力斗

ぼくは、東日本大震災があった時は小学1年生でした。その時はまだ小さかったのでき　ょうふというのが分かりませんでした。しかし東日本大震災の日から、きょうふという物はどうなのかを知りました。その時には、雪みたいな物がふったり、地われや、学校の窓がはずれたりしました。その地震で、日本はほうしゃ線やつなみで町がこわれたりしたので、すめなくなったりした人もいるので、そうとひどい地震だったことが分かりました。地震から、約4年たった今でもまだ復興がそんなに進んでいないところがあるので、そういうところを早く復興させた方がぼくは良いと思ってます。ぼくは、地震の又いきょうで引っこしたりはしなかったけど、地震の後に友だちが引っこすことがあったので、今でもそれが少し残念だと思っています。

（20文字 × 20行）

本宮市立白岩小学校　11 歳

412「東日本大震災の体験談と復興への想い」応募原稿　氏名 金澤葵

今から4年前。わたしが小学1年生のころ震災がおきました。そのころわたしは、子どもクラブで宿題をしようとして、部屋にむかっていました。そのとき大きな地震がおきて、わたしは、急いで外ににげました。室内を見ると、物がすごくけれていました。外は、雪がふっていて、寒かったです。しばらくすると、地震がおさまってきました。おじいちゃんもむかえに来てくれて、すごく安心しました。

復興への想いは、地震、津波、放射能の被害にあった人たちが、放射能の心配もなくなって、不自でも早く安全にくらせるように、元の生活にくらせるようになってほしいと思いました。

（20文字 × 20行）

本宮市立白岩小学校　11 歳

413 「東日本大震災の体験談と復興への想い」応募原稿　氏名 渡辺菜々美

平成23年3月11日、私はとても恐しい体験をした。私が学校から家に帰ったのが2時50分、その10分後に地震が始まった。その地震は、東日本大震災の始まりだった。

その日の夜には、停電になり、いわきでは、津波がおこり、恐しい出来事は、いつまでも続いた。私のおじいちゃんがその時いわきにいた。なので津波を経験したそうだ。その津波でおじいちゃんの会社の車が流されたそうだ。私は、その言葉を聞いた時、とても恐くなった。車が流されるぐらいなら、人間がまきこまれたら、人間は、死んでしまうのではないかと…。

私はそう思った。それから、4年たった今では、地震もなくなり、平和になった。

でも私は、平和になった今でも、あの時の恐しい出来事は、いつまでもわすれない。

これから、こういう恐しい出来事があった時のために、私は私の子ども、孫に教えていきたいと思う。これからも平和でいてほしい。

（20文字 × 20行）

本宮市立白岩小学校　10 歳

414　「東日本大震災の体験談と復興への想い」応募原稿　氏名 渡辺琴音

3月11日のあの日私は、子どもクラブにいました。じしんがなったときには、みんなで外にいきました。そして、たながたおれ、かざりが落ち、かべにかざられていたがくが大きな音で落ちました。周りにいた友達と自分は不安でいっぱいになり、なかには泣いている友達もいました。長い間じしんがなり続けておちついたころになると雪がふってきて、寒かったです。長い間外にいたので、体は冷えっていました。それから20分くらいたってから家族がむかえにきてくれて安心しました。

今後は、つなみで家がながされてしまった人たちがかせつ住たくからもとの場所へ帰れるようにみんなでささえ合っていけばもとの福島県にもどれると思います。あの日いらいたくさんの人がなくなりたくさんの人が笑顔をなくしています。ボランティアなどをして、人の助けになることを私はしたいです。

（20文字 × 20行）

本宮市立白岩小学校　11 歳

415 「東日本大震災の体験談と復興への想い」応募原稿　氏名 渡辺 郷

この東日本大震災では何人もの人がなくなっているから友達や家族をなくした人に元気になってもらいたいです。

ぼくの家は家の中がガチャガチャになっただけだけど、友達や家族をなくしていないから少ししか気持ちが分からないけれど、友達や家族をなくした人は、すごくかなしいと思うし、すごくさびしいと思います。

だから元気になってほしいです。

そして、かなしいじょうたいにずんでいる人たちが心もとにもどれるようになって、自分の心もとでずんでもらいたいです。

これらの元気になってほしいことは、かなしいじょうたいの人が心もとにもどってほしいのはぼくのねがいです。

（20文字 × 20行）

「東日本大震災の体験談と復興への想い」応募原稿　氏名　安藤幸太郎

東日本大震災

安藤　幸太郎

3月11日、ぼくは下校中だった。その時、とつ然、大きなゆれがおきた。家に帰って、かべに時でころんぶがへ、といた。停電もしていた。ぼくは、夜中またあのような大きな地しんが来たらと考えると、ぼくは、怖くてたまりませんでした。その中お父さんは、会社から帰って来れなかったので、とても不安でした。おふろも入れず、二日も続けずに、電気のありがたさを初めて知りました。その後、原発事故があり、ぼくたちはしばらく、外で活動することが出来なかったし、風評被害などもあり、とてもいやな思いをしました。

あの東日本大震災でとても沢山の人の命がうばわれました。今後、東日本大震災の経験を生かして、また大きな被害がおきないように、防災にも取り組んでいってほしいと思います。多くの命が犠牲にならないために。

本宮市立白岩小学校　11 歳

417 「東日本大震災の体験談と復興への想い」応募原稿　氏名 菅野 和菱

私は、東日本大震災のとき学校に居ました。私はバスで学校に通っていたのでバスに向かっていました。

その時、地面がゆれ始めました。私は学校の校庭でゆれがおさまるのを待っていました。そのとき私の頭にうかんだのは家族のことでした。家族は無事か、今どこに居るんだろうか。私の心は不安でいっぱいでした。

それから親せきがむかえに来てくれて、家に帰り家族が無事ということを知りホッとしました。震災の日の夜は家族のあたたかみを改めて教えてくれたと思います。

これから津波のひ害のあった海ぞいの方たちや、ほうしゃのうで地元に住むことができなくなった方たちの生まれ育った親しみのある地元を1日も早く復興することを願っています。そして、震災を経験した人は震災の話をどんどん次の世代の人たちに伝えていくことが大事だと思います。

（20文字 × 20行）

本宮市立白岩小学校　12 歳

418「東日本大震災の体験談と復興への想い」応募原稿　氏名 三瓶 光優

東日本大震災からもうすぐ四年。当時の私は小学二年生だった。毎日兄弟とけんかしていた。いたずらばかりしてみんなを困らせていた。家族のことなど考えずに、わがままを言っていた。そんな中、あの地震が起こった。

学校にいた私は、大きなゆれで何が起こったのか分からず、パニックだった。家に帰ると、屋根のかわらが落ちていた。かべのひびめちゃくちゃな室内。それでも、家族全員が無事でほっとした。今までは、家族がいるのは当たり前だと思っていた。しかし、家族が普通にいることが何よりも幸せなことだと初めて知った。家の中を一つ一つ片付ける両親の姿を見て、私たち兄弟も力を合わせて手伝った。毎日けんかしていたのがうそのように、みんなで協力し合った。

東日本大震災は、たくさんの尊い命を奪った悲惨な災害だった。その中で私は、家族の大切さや当たり前の生活のありがたみについて気付くことができた。

（20文字 × 20行）

本宮市立白岩小学校　11 歳

419　「東日本大震災の体験談と復興への想い」応募原稿　氏名 渡辺 恭依

「電気を大切に」「節電」……そんな言葉をよく耳にします。エネルギーは大切。頭ではわかっていても、実感がわきませんでした。あの東日本大震災が起きるまでは。

四年前、東日本大震災が起き、電気が止まりました。寒くてもストーブは付きません。真っ暗の中で余震におびえて過ごしました。そこで初めて、電気のある生活がどんなにすばらしいものかを実感しました。そこで、総合的な学習の時間に、未来の発電について調べることにしました。化石燃料はいつかなくなってしまいます。未来は再生可能エネルギーを取り入れていかなければいけません。私が最も興味を持ったのが温度差発電です。温度差によって電気ができるなんて、聞いたこともなかったので、実験で実際に豆電球が付くのを見て驚きました。

東日本大震災から、私は電気の大切さを実感しました。節電の必要性を知りました。みなさんは、しっかり節電していますか。

（20 文字 × 20 行）

420　「東日本大震災の体験談と復興への想い」応募原稿　氏名 古河 愛琴

わたしは、古道小学校の4年生です。しんさいの時は石森小学校にいました。そこでは楽しくすごしていました。でも石森にいるときも「はやく古道都路にもどりたい」と思っていました。まだ石森にいる時もひっこしはたくさんしました。しんさいの時は岩井沢の人たちともいっしょでした。そして4年がたってやっと古道にもどることができました。その時はやっぱり「よかった もどれた、うれしい」などいろいろなことを考えていました。

古道小学校にもどってくるとずらんざかの上に地いきの人が旗を持って立っていてくれました。そして「おかえり」など言ってくれました。とてもうれしかったです。校しゃに入るとなつかしいにおいがしました。今はこの古道小学校で楽しく生活しています。

前は出来なかったスポ少も今はやっています。本当にとっても楽しいです。これからは自分の習いごとや学校生活をもっとがんばって楽しく生活していきたいです。

(20文字 × 20行)

421　「東日本大震災の体験談と復興への想い」応募原稿　氏名 村埜羽小吾

ぼくは、東日本大しんさいの時、ようち園生でした。

ぼくたちは、そつ園式ができずに一年生になりました。石森小学校をかりて、三年間、岩いさわ小学校のみんなと学習していました。そして、なんかゆじがかけられて、また都路で学習することができました。すずら坂を上ぼると、地ばきの人が、むかえてくれました。そのときぼくは、なんだか温かい気持ちになりました。古道小学校の中に入いると、なんだか早く古道小学校で、勉強したくなりました。とてもうれしい。

ときどき、学校のすずらん坂に、さるがあらわれることがあります。みんな、元気みみんな元気に外や、体育館で遊んでいます。

これからも、古道小学校で、いろんなことをみんなでがんばりたいです。

（20文字 × 20行）

田村市立古道小学校　10 歳

422　「東日本大震災の体験談と復興への想い」応募原稿　氏名 門馬聖菜

わたしは古道小学校の4年生です。4年ぶりに古道に帰って来ました。しんさいの時、わたしはようちえんでした。そつ園式もできないまま小学生になりました。

今年から、古道小に通い始めました。すずらんざかの上で地いきのかたがたが出むかえてくれました。しょうこうぐうで、きょうこ先生が4年教室の場所を、教えてくれました。ま最初の時は、すごく広かったのでとてもびっくりしました。朝、教室に来たらまことちゃんがいて、朝の時間に学校のたんけんをしました。広くてまようことがたくさんあったけど、今は古道小学校にもなれたので、たくさん遊んでいます。

都路にもどって来られてとってもよかったです。

これからもふるさとの古道を大切にしたいです。

（20文字 × 20行）

423　「東日本大震災の体験談と復興への想い」応募原稿　氏名 渡辺海叶

ぼくは、三月十一日に大地震と原発事故を体験しました。この体験は、自分にとってはわすれられない体験でした。それは、家族とわかれたことです。ぼくのお父さんとお母さんは避難所で働いていたのでぼくといっしょに避難できませんでした。そして、ぼくは船引から郡山へ行き、新潟県へ、そして栃木県へ避難しました。四月になって学校に通えるようにお父さんが三春に家をかしてもらいました。そして、お父さんとお母さんにドッと会えました。ぼくは、とてもうれしかったです。そして、久しぶりの友達と、岩井沢の友達や初めて会う友達とも仲良くなれました。そして、平成二十六年、やっと都路に帰ってこれました。

やっと都路に帰ってこられたので、地震や原発事故もおきることなく、家族とも友達とも仲良く楽しく都路で生活していきたいです。

（20文字 × 20行）

「東日本大震災の体験談と復興への想い」応募原稿　氏名 高橋公太

ぼくは、しんさいの時は、ようち園生でした。そつ園式はできずに、小学生になりました。三年生までは、岩井沢小学校と合同で学習し、旧石森小学校をかりて、勉強していました。四年生になって、古道小学校にもどってきて、初めて学習できました。

ぼくは、古道小学校にもどってきたとき、一番最初に見たのはかさまつです。かさまつが、しんさいの時にたおれたかわからなかったので、しんぱいだったけど、かさまつは、たおれていなかったので安心しました。

今ぼくは、校庭で友達と遊んでいて、休日には、校庭で友達と、ソフトの練習をして、元気いっぱいに遊んでいます。

部屋にもどってこれてとてもうれしかったです。これからも部屋を大切にしていって、もっと自然がいっぱいの部屋を作りたいと、思いました。

（20文字 × 20行）

425 「東日本大震災の体験談と復興への想い」応募原稿　氏名 本間蓮玖斗

ぼくは、しんさいのときようち園生でした。そつ園式ができずに1年生になりました。

南相馬小学校で3年間すごしました。

平成26年4月に古道小学校の4年生になっていました。初めてきて地(いき)の人たちがみおくってくれました。それでいまも古道小学校にすごしています。

古道にもどってきてもう気にもどってきています。

今はいろいろなことをならってのってしんさいのときはしんがすごくて習いごとたのしくなかったけどもどってこれていろいろなことをできて。習えてぼくはとてもうれしかっただです。

もどってきてどーもがでまて今まではかいものがでなかったけど今年はかいものがしやすくてとてもうれしいです。

これからも、都路を大切にしていきたいです。

（20文字 × 20行）

田村市立古道小学校　10 歳

426　「東日本大震災の体験談と復興への想い」応募原稿　氏名 吉田実里

わたしはしんさいのときようち園生でした。ようち園のそつ園式はできず、小学生になりました。小学1年生から3年生までは石森小学校で岩井沢小学校の友達と生活していました。

でも、今年からは岩井沢小学校とは別々で生活しています。わたしはしんさいのとき、ようち園にいたので古道小学校の校しゃは初めてでした。4月6日の朝、すずらん坂を上っていくと地いきの方が出むかえてくれました。校しゃに入ったときは、自分のふるさとで学習できると思ってとてもうれしかったです。

その後は、地いきの方にいろいろと教わったり、すずらん発表会、運動会などいろいろな行事を地いきの方などといっしょにやりました。

これからも都路をもっとにぎやかにできるようにがんばっていきたいです。

（20文字 × 20行）

427　「東日本大震災の体験談と復興への想い」応募原稿　氏名 胡田千夏

わたしは、古道小学校の1年生です。しんさいが、おきたとき、ようち園でした。そつ園アルバムの写真は、しんさい直前にとりました。ですから、そつ園式は行わずに一年生になりました。

古道小学校にもどるまでは、石森小学校という学校をかりていました。岩井さわ小学校の人達と一しょに、石森小学校に3年間お世話になりました。

そして今年、ようやく都路にもどってきました。船引からのバスからおりると、地いきの人々が、すずらん坂で、むかえてくれました。石森小学校でも、たくさん勉強しましたが、校しゃには、初めて入ったので、古道小学校の1年生ともいうことが、できると思います。初めて入った校しゃはとても広く感じました。ですが8か月間校しゃを見ていると、まるで、4年間ずっと古道小学校にいたかのように感じてきました。

これからもふるさと都路を大切にします。

（20文字×20行）

ぼくは、東日本大震災の時は、まだようち園生でした。いきなりじしんが来て家では、タンスがたおれガラスがわれていました。

ぼくは、3回もひなんして今住んでいる船引のかやつ住たくで4回目です。その時1年生のときで船引の旧石森小学校で岩井沢小学校と古道小学校は、3年間いっしょに勉強していました。

そして、2014年都路のひなん指じがかいじょされ古道小にもどれるようになりました。でもぼくは、3年生の時古道小学校をはなれ船引小学校に転校することになりました。しかし3か月で船引小学校を転校してまた古小にもどりました。やっぱりふるさとがいいのでもどってきました。今も船引に住んでいてバスで登校しています。

これから今はふるさとを大切にして友達と仲よくしたいです。

（20文字 × 20行）

「東日本大震災の体験談と復興への想い」応募原稿　氏名　匿名希望

わたしは、東日本大しんさいがおこった時ようち園生でした。わたしたちはそそつ園式ができずに、石森小学校をかりて小学校生活をおくってきました。

石森小学校で遊んでる時、ときどき古道小学校のことを思いました。どんな学校なのか、中はどういうふうになっているのかなと思って勉強していました。

都路にもどっていいと聞いたとき、目がかがやきました。

4年生にわたしはなって、バスで古道小学校にかようことになりました。バスの中でみんなと話をしながら古道小学校につきました。すずらん坂を歩いて行くと都路の人がはくしゅしていがんばってねという声やおかえりという声も聞こえてきました。わたしは、うれしくなりました。中に入いると木のにおいがしてきました。

わたしは、この都路をすっていきたいと思いました。

（20文字 × 20行）

田村市立古道小学校　10歳

氏名　菅野彩華

わたしは、古道小学校の4年生です。
今年の4月に古道小学校にもどってこられてよかったです。東日本大しんさいの前、ようち園のときそつ園式ができずに石森小学校の校しゃをかりて、3年生までその学校で生活していきました。

初めて古道小学校に入る前にすずらん坂を上ったとき地いきの人たちが
「おかえりなさい。」
と、言っておかえってくれました。

わたしはうれしかったです。

校しゃはとてもきれいでした。
1日1日がとても楽しいです。

今は、船引のかせつじゅうたくに住んでいます。ですがときどき日曜日に遊びに行きます。

ひなんしじがかいじょされてよかったです。
都路にきて、ひさしぶりだったのでとてもうれしかったです。

これからも、都路で勉強をがんばります。

（20文字 × 20行）

431 「東日本大震災の体験談と復興への想い」応募原稿　氏名 坪井 瀬奈

わたしは、しんさいがおきた時はようち園生でした。最初は田村市の石森小学校に入りました。でもわたしは、しんさいまでは福島市に住んでいました。1年生の2学期に転校してきて3年間ずっとその校しゃで勉強してきました。

そして今年初めて都路の古道小学校に来ました。バスから下りてすずらん坂に登ろうとすると都路町の人たちが出向えてくれました。そのときは、うれしかったです。すずらん坂を登り終わって学校の中に入ったとき、きれいな学校だなと思いました。

それからずっとこの学校で勉強しています。

わたしは来年の3月に都路に帰る予定で家をかたしたり荷物を持ってきたりしています。早く家に帰って家族みんなで楽しくすごしたいなと思っています。

これからは、都路の自然などをまもっていきたいです。

（20文字 × 20行）

432　「東日本大震災の体験談と復興への想い」応募原稿　氏名 宗像彩乃

わたしは、東日本大しんさいの時、ようち園生でした。でも古道小学校には、行けず、石森小学校の校しゃをかりて生活しました。そこに3年間岩井さわの友達もいけっもよかいでも古道小学校のことは、あまり覚えていませんでした。

そしてわたし達が3年生のそつ園式ごろに、古道小学校に帰れると聞いて、その時、すごくうれしかったです。

春休みが終わる前には、もう心ぞうがどきどきしていてまだかなと思っていました。

4月、ついに仮せつから45分間かえにのって、やっと古道小学校に、つきました。すずらん坂を歩いていると、地いきの人たちがむかえてくれました。すごくうれしかったです。

そして、今ふるさとの都路で、学校生活が、始まって、もうすっかりこの古道小学校になれました。

これからにわたしは明るくすごしていきたいです。

（20文字 × 20行）

田村市立古道小学校　10 歳

433 「東日本大震災の体験談と復興への想い」応募原稿　氏名 宗像愛望

わたしは、しんさいの時はまだようち園生でした。ようち園のそう園式はできず、そのまま、1・2・3年生の生活をすごしました。

初めての古道小学校の校しゃは、広く感じました。すずらん坂を歩いていくと、地いきのみなさんが、「おかえりなさい」と書かれていた旗を持ってむかえてくれました。教室に入って、「おはよう」と言うとみんなも、「おはよう。

と元気にかえしてくれました。それを聞いたら、みんな元気でよかったなと思いました。

その後のじゅ業もとても楽しかったし、夏休みの後には三年生までいっしょに勉強していた子がもどってきました。またいっしょに勉強できるようになってうれしかったです。

しんさい前のような、今よりもっときれいで自然いっぱいの都路にもどってほしいなと思います。

そのために、わたしたちに出来ることをやりたいです。

（20文字 × 20行）

434　「東日本大震災の体験談と復興への想い」応募原稿　氏名 宗像良人

ぼくは、しんさいの時、ようち園生でした。

その時、急にじしんがおこいました。

ぼくは、びっくりして、この後どうなるのかなとこわくないました。この時、お兄ちゃんは、バスの中にいて、この後お母さんがむかいに行きました。

家の中は、いろんな物がおちたり、われていました。こんな思いは二度としたくないと思いました。

そして、そつ園式が行わずに、入学式をむかえました。ダンスや歌を一っしょうけん命練習したのに、できなかったので、悲しくなりました。

二年生から三年生のときは、石森小学校でいろんなことを学びました。

それから長い月日が流れ、今ぼくは、四年生になって、古道小学校にもどって、楽しくすごしています。

これからも、ずっと郷土が自然いっぱいの町でいてほしいです。

（20文字 × 20行）

435　「東日本大震災の体験談と復興への想い」応募原稿　氏名 吉田 陽平

ぼくは、しんさいのときはようち園生でした。そして4年後ぼくたちは古道に帰って来て初めて古道小学校の校しゃで4月から勉強できることになりました。その時はとてもうれしかったです。一度はなれた友達も帰って来てくれてたくさん話したり遊んだりしました。今はみんなといっしょにたくさん遊んだり勉強したりしています。

初めて学校に来る時は地いきの人たちもむかえてくれて、とても楽しみでした。入ボーツ少年だんにも入り今はとても楽しいです。ひなんしている時はなかなか体を動かすようなことができなかったので、古道に帰って来てこれてとてもうれしいです。

これからは、もっと友達と遊んで、勉強などもしっかりやりたいです。

古道をこれからもずっと守っていきたいです。

（20文字 × 20行）

田村市立古道小学校　11 歳

436「東日本大震災の体験談と復興への想い」応募原稿　氏名 松本 亜海

わたしは、東日本大震災を体験してみて、思ったことは、2つあります。

一つ目は、とてもこわかったことです。わたしは、初めて体験してみて初めはただの地震だと思ったけど、ながながおさまらないし、しかも、強いじしんだったのでだんだん不安になってきてとてもこわい思いをしました。

二つ目は、いやだったことです。震災がわってからすぐに原子力発電所がばくはつして放射線が流れてきたのでいなんしなきゃいけないことになって親子か三者か郡山に行く人がいました。なので、学校にも通えなくて、てもいやだった日々がつづきました。わたしは、一時期東京に転校することもまよっていましたがやっぱりみんなといたいのでやめました。だから、とてもいやな思いでした。

わたしがおもう復興への想いは、別にありません。今でも学校にもどれただけでも、今とはちがう生活ができて楽しいのでわたしは、別にこのままでも十分だと思っています。

（20文字 × 20行）

田村市立古道小学校　10歳

437 「東日本大震災の体験談と復興への想い」応募原稿　氏名 猪瀬啓仁

ぼくは、東日本大震災が、おきた年は一年生でした。その日は、金曜日で体育館で放課後に宿題をしていました。すると、ガタガタガタガタと学校が少しゆれ体育館から出て近くにあったつくえのたにかくれおさまるのを少しの間待っていました。しかしおさまるどころかもっとひどくなり外に出てしゃがみまわりをみると泣いている人が何人かいてぼくも心の中で家族の事が気になり少し心配になりました。そしてじしんがおさまったので車にむかいました。そして家のテレビで津波の情報が伝えられ原発がはく発し5月になり石森小学校で過ごし復興のいちだんがくし今年は通小学校でまた学校生活をおくることができました。通小学校で登校する日　すずらん坂に村の人が立って登校するのをみれるそして笑顔でみつめてくれていました。ぼくもその笑顔を見るとすごくうれしくなりました。なので残り少ない学校生活ですがたのしくクラスメイトと学校生活を送っていきたいです。

（20文字 × 20行）

田村市立古道小学校　11歳

438　「東日本大震災の体験談と復興への想い」応募原稿　氏名 加藤翔馬

2011年3月11日東日本大震災がおこりました。ぼくは、古道小学校にいて先生と、友達と校庭でひなんしました。こんな大きな地震は初めてで、立っているのも、やっとのことでした。泣いている友達もいておたがいに声をかけてはげまし合いました。

ぼくは、家に帰り、余震が続くたのいつでもひなんできるように準備して、家族みんなで居間で一夜を過ごしました。

次の日、大熊にある原子力発電所がばく発して、ひなんするようにと放送があり、ぼくたちは三春町に行きました。一ヶ月くらい三春町にひなんして、それから船引町に引っこしました。団地に4人での生活が始まり、部屋がせまく大変でした。ようやく学校も再開してみんなと会うことができました。

震災がおきてもうすぐ4年になりますが、去年ようやく古道小学校に通うことができてうれしかったけど、はなれた友達もいるので早くもとどうりになってほしいです。

（20文字×20行）

(20文字×20行)

「東日本大震災の体験談と復興への想い」応募原稿　田村市立古道小学校　11歳

氏名　加藤琴

私は、三月十一日、いつものように下校していました。家の庭で、雪で一人で遊んでいると、急に、地面がグラグラとゆれ、家の屋根につもっていた雪の塊がおちてきました。

私は、当たったら死ぬと思い、何もない田んぼに行き、頭をかかえていました。

その後、地震もおさまり、家に入ってテレビを見た私は、浜通りの様子を見て、言葉がでてきませんでした。

翌日も私たちはニュースを見ていましたが、心配しながらいると、いさなり連絡が入り、原発が爆発したとのことでどこかへいかなくなってしまいました。私たちは、少なくなったものを食べていたのですが、いまは、買ったものしか食べられません。祖母は、まだ野菜を作っていますが、私の事を考え、店で買った野菜を食べさせてくれますが、祖母の垂を考えると、早く畑の野菜を食べたいと思います。

私は、震災前は、畑や田んぼに植えたものを

田村市立古道小学校　11歳

440　「東日本大震災の体験談と復興への想い」応募原稿　氏名 渕紹愛

二千十一年三月十一日、あの日の事は四年たった今でもはっきりと覚えています。

私は小学一年生でした。私の好きなお弁当の日で私の好きな物がいっぱい入ったお弁当を食べたのを覚えています。友達と体育館で遊んでいたら、とつぜん地震がおきました。先生に「早く外に出て」と言われ、私は訳のわからないまま外に出ました。地震が少しおさまってから、お母さんがむかえに来てくれるまでバスの中にひなんしていました。友達はみんな泣いていました。私もこわくて泣きました。お母さんがむかえに来てくれるまですごく不安だったのを覚えています。

二千十四年四月私はやっと大好きな都路に帰って来ました。今は大好きな古道小学校に通っています。私は今、家族と自分達の家で楽しくくらしています。でも、東日本大震災で家族とはなればなれになった人もたくさんいます。自分の家に帰れない人もたくさんいます。みんなが安心してくらせる日が早くくればいいと思います。

（20文字 × 20行）

441　「東日本大震災の体験談と復興への想い」応募原稿　氏名 遠藤慧人

平成23年3月11日、あの日のことは、今でもわすれられません。ぼくたちが、思いもしなかったことがおきてしまったあの日が、とてもわすれられません。たくさんの人が、命を失った、東日本大震災。ぼくたちの予想ではなかったことでした。地震がおさまった後も、とても不安な気持ちでした。またあんなことがおきたらどうしよう、という気持ちをかかえながら家に帰りました。家に入ってみると、いろんな物が、われていたり、壊ちていたりしました。家族のみんなも、心配でたまりませんでした。夜にニュースを見たらいろいろなところがつなみで流されたりして、大きなけがいをうけた場所がありました。ぼくはとてもこわくなりました。でもたくさんの人が復興が進むため、じょせん作業などをしている人などが見られました。ぼくは、みんなが、また、自分のふるさとですごせるために、いろんな人が協力してみんな元気ですごせるようにしているんだなと思いました。

（20文字 × 20行）

442　「東日本大震災の体験談と復興への想い」応募原稿　氏名 菅野翔

東日本大震災のときはすごくこわかったです。あのいう大きなじしんは初めてでした。家にははいれないので車でぼくとお母さんとおばあちゃんと弟と4人で車に乗ってりオンドオールのちゅうしゃじょに1はくしました。その後、ふねひきの中学校に2はくしました。中学校の次に、でんそうに行ってとまることになりました。でんそうのときはじえいたいの人がごはんを作ってくれました。それからこんどは、春山小学校にうつりました。そこではおふろもじえいたいの人が作ってくれました。こんどはかせつにひっこすことになりました。こんどはあったかいところに入れてうれしくなりました。部屋もろっありました。かせつには3年いました。ボランティアの人が遊んでくれて楽しかったです。車でつけて魚のすいぞくかんがきていろんな魚がいました。とてもきれいでした。もちつきたい会もかってあんこもちやきなこもちやじゅうねんもちがありました。

（20文字 × 20行）

田村市立古道小学校 11 歳

443 「東日本大震災の体験談と復興への想い」応募原稿　氏名 坂本虎雅

ぼくは三月十一日いつも通りに学校に行った。その時ぼくはしん災が起こるとはおもいもよらなかった。そして下校しようとしたとき、にわとりがじしんがおこってびっくりした。ぼくは地しんはすぐにおさまるとおもったがおさまらずゆれは大きくなるばかり。ぼくはいきなり不安になった。それから、家に帰ると家のあちこちがこわれていてばあちゃはこれから生活はどうなるんだと不安になるばかりであった。そして夜ごはんはおにぎりだけであった。そして次の日には電気が使えなかったのでそ外で遊んだ。

そしてぼくはまず三春にひなんすることになった。

もうしん災はおこってほしくない。

（20文字 × 20行）

444 「東日本大震災の体験談と復興への想い」応募原稿　氏名 古河聖大

ぼくは、最初に体育かんのそうこにいました。とつぜん地しんが起こった。でも地しんは、ずっとおさまらなかったので、すぐに体育かんから出てずっと体育ずわりしてました。それから鉄ぼうがこわれました。それから石森小にいきました。岩井沢の友達もいました。いつも通りの勉強でした。遊ぶのも楽しかったです。4年生になったとき、山登りや宿泊活動にいきました。宿泊活動では、2日間みんなのねがおを見れなかったの残念でした。やっと古道に帰れたときは、なつかしいなと思いました。食堂もみんなとおいしく食べています。先生も変わりました。今は、サッカーが楽しいです。それに夏休みや冬休みは、宿題が多いのでつらいです。宿題を忘れることが多いのでこれからは、がんばっていきたいです。

（20文字 × 20行）

田村市立古道小学校　11歳

445　「東日本大震災の体験談と復興への想い」応募原稿　氏名 宮樫優心

ぼくの家族は、じいちゃん、ばあちゃん、父、母、妹の六人です。

震災の時は、じいちゃんとばあちゃんは牛の世話があり近くの親せきの家に、父も、仕事があるので近くの親せきの家に、ぼくと母と妹の三人は、埼玉県の親せきの家にひなんしました。家族がバラバラになったのは、初めてのことでした。

ぼくは、毎日原発事故のこと、はなれている家族のことが心配で悲しい気持ちでした。

震災から三年が過ぎ、ぼくの家族は、自宅のある都路に戻り震災前と同じ生活を送っています。家の前にある田んぼで米も作りました。

春には田植えをして秋には稲刈りをしました。たくさんとれた米は、一度放射線量を検査してもらいます。

ぼくが大人になったら家族と米を作りたいです。安心して食べられるおいしい米を作りたいと思います。

（20文字 × 20行）

446　「東日本大震災の体験談と復興への想い」応募原稿　氏名 宗像七海

いまから4年前、東日本大しん災という大きな地しんがありました。そのときわたしは古道小学校で遊んでいてゆれがありました。どんどん大きなゆれになり急にみんなが外へにげ出しました。わたしも急いで外へ出ました。外でもゆれていて、やっと地しんだと気づきました。家はどうかな、家族はどうかなと心配していました。校庭の土が土砂くずれになっていておどろきました。こんな最悪な思い出があり、そして二年後になりました。古道小学校が地しんのため使えません。なのでわたしたちは旧石森小学校に来ました。古道とはちがい緑がある外も地域の人も変わっていてさびしかったけど岩井沢小学校の子達がなぐさめてくれました。そしてまた、二年後、岩井沢小学校の子達とはなれやっと古道小学校に行けるようになりとてもうれしいです。わたしたちはしん災に負けないくらいの元気で頑張っています。これからも元気な思い出をつくっていきたいと思います。

（20文字 × 20行）

447　「東日本大震災の体験談と復興への想い」応募原稿　氏名 木村 陽菜

あの3月11日の震災の時、私は小学1年生でした。私はあの時、いつものように小学3年生のお兄ちゃんと一緒に下校するために3年教室の前でまっていた。その時あのとても大きな地震が起きて、まわりの物がどんどん落ちていってとてもこわくて、私は泣いてしまいました。あの地震があるまでは、あまり地震などはあまり気にしていませんでしたが、震災の時やその後、今でも少し大きい地震でも少しこわくなってしまうことがあります。

私は外に出てもお家に帰ってもお母さんやお父さんのことがとてもとても心配でした。私のお父さんは田村市役所で働いているのでいろいろとお仕事があり、私たちと2週間ぐらいの間会うことができませんでした。

私は、福島が大好きなので福島のことを悪く思われたくないので早く震災前のような放射能を気にしない生活にもどってほしいなと思います。

（20文字 × 20行）

448　「東日本大震災の体験談と復興への想い」応募原稿　氏名 横田萌夏

平成二十三年三月十一日金曜日、午後二時四十六分に発生した東日本大震災では、私は学校の体育館にいました。大きく、長くゆれて恐く、動くことができなくていました。ゆれが一度すこまった時に、体育館にいたみんなで校庭にひ難しました。それから、バスの帰りではなく、お母さんが迎えに来るまで、バスの中で待っていました。なかなかお母さんが、来なくて、不安でしたが、迎えに来たら安心しました。そして、お母さんたちと、ひ難しましたが、余震が続き、ゆっくりねることができなくつかれました。それから何日かして、学校も石森小学校で再開して友達に会うことができてすごくうれしかったことを覚えています。少しずつ、以前の生活にもどり今では新蛇の古道小学校にかよい、学校生活をおくることができています。でも、まだ全部がもどったわけではありません。ばらばらになった友達もいます。だから人と人のつながりを大切にしたいです。

（20 文字 × 20 行）

「東日本大震災の体験談と復興への想い」応募原稿

田村市立古道小学校 11歳
氏名 吉田伊吹

2011年、3月11日に東日本大震災が起きました。

ぼくはじゅくにかよっており帰る途中に大きなわれがおきておどろきました。すると家の近くのかわいがおちて、家はたおれもうでぐっくりしました。ぼく達の家族はひなんして郡山に行くと家の中の本がすべて出ていました。テレビを見てみたらニュースは地震のことばかりでした。津波で、行方不明者や死亡者が出ました。ぼくは、ことの深刻さがあまり分かりませんでした。こんなにたかいがたきくなっていまんだと思いました。今でも地震で道路が割れたりして直す作業がかこなわれるのが目にうきます。ひさしぶりに都路にもどってきんきんんんがもどってきて新しいお店ができて安わったものも少しあるけど昔は今よりも人口が多かったけど今は少なくなってしまいました。それでもぼくは、自分のふるさと都路にもどってこられてうれしかったです。

（20文字 × 20行）

田村市立古道小学校　11歳

450　「東日本大震災の体験談と復興への想い」応募原稿　氏名　吉田美桜

震災による原発事故から、もうすぐ4年が経ちます。昨年4月から元の町に戻り、普通に暮らしています。その間に、親友が転校してしまったり、飼っていた猫がいなくなってしまったりと、大切な物を失いましたが、それと同じぐらい大事な事を経験し、学びました。それは、人や物、その他の全ての事に感謝する気持ちです。ひなん生活を始めた時から、知り合いや知らない人まで、たくさんの方に助けられて、はげまされました。そういった方々のおかげで、学校にも行け、希望を持って明るく生活ができていたと思います。元の町に戻れたのも、今、普通の生活ができているのも、みなさんのおかげだと思います。ふるさとが自分にとって、どれだけ大切な場所なのかも、改めて実感する事ができました。どんなことがあっても、ふるさとを大切に守っていきたいし、今まで助けてくれたりやさしくしてくれた方やはげましてくれた方々に恩返しがしたいです。

（20文字 × 20行）